

公益財団法人第五福竜丸平和協会

令和4年度(2022年)事業計画

第五福竜丸展示館は、開館から46年、船歴は75年となる。また本年はビキニ水爆実験から68年目にあたる。展示館開館日数は308日となる。公益財団法人第五福竜丸平和協会は、定款にうたう貴重な木造船・第五福竜丸の現物をとおして伝える事業を中心に、原水爆の惨禍を再び繰り返させないとの願いで保存展示が実現したことを踏まえた事業を広く都民・市民にむけてすすめる。

本年度は、2020年から続く新型コロナウイルス感染が完全には終息しないもとの、この2年余実施し対応してきた感染防止に引き続き留意しながら来館者対応をおこなう。

第五福竜丸展示館の存在意義を広く発信し、第二次世界大戦後の核の開発とその下での核被害、第五福竜丸の被ばくをはじめ、ビキニ事件による核実験場や漁船など広範な被害の実情を伝え、第五福竜丸が保存されてきた意味を、展示と来館者へのガイド活動などを通じて伝える。

この間取り組んだインターネットを活用した発信の経験や都内はじめ各地での福竜丸・核被害のパネル展や映画会、学校や市民向けの講演活動にとりくむ。

核兵器禁止条約の発効に見られる核なき世界への努力の一方で、核兵器の増強や核使用が危惧される事態などを視野に入れ、核使用・核開発がもたらす惨禍を広く知らせる。平和遺産、産業遺産としての第五福竜丸の存在とその意義を伝える。学校見学促進への工夫、来館者への対応、展示館の利用の拡大へのとりくみをすすめる。

公益法人のかなめの事業としての展示館業務

- ・東京都からの委託業務である第五福竜丸展示館の管理運営は、第五福竜丸平和協会の事業のかなめである。今年度は開館308日(平日242日、日・祝日66日、休館57日)となる。
- ・本年度は、コロナの状況に左右されるものの、春・秋の修学旅行・学校見学シーズンはコロナ感染にも万全の対策をしながら運営する。これまで展示館を訪れたことがない学校への周知、DMやインターネットなどを用いての情報発信をおこなう。
- ・「展示館のしおり」を広報宣伝に活用する。
- ・展示館と協会の事業を支える賛助会員、ニュース会員を広げるとりくみ、第五福竜丸、ビキニ事件を知らせるとりくみとして『第五福竜丸は航海中』などの書籍の普及、広報資材の活用を広げる。

企画展【展示替え】等のとりくみ

都との契約にもとづく展示替え(常設展示の一部追加、企画展等の開催)をすすめる。本年度最初の春の展示替えは、「ラッセル＝アインシュタイン宣言」のコーナーをリニューアルする。宣言の持つ今日的意義、出された経緯、署名者の紹介などを説明する。これと結び人類学的課題である気候変動問題などをマーシャル諸島の実情などと関連づけてとりあげる。

秋の展示替えは、「世界の核実験被害」を中心に据えた企画展をおこなう。被害の実情、被ばく者の声、補償の現状などの解説と写真パネルを展示する。制作にはフォト・ジャーナリスト豊崎博

光氏(協会専門委員)の協力を得る。講演会やギャラリートークの開催、インターネットでの配信などをおこなう。

展示パネルなどの資材をどうして広く発信する

- ・「第五福竜丸被ばく・ビキニ事件」の展示用パネル、豊崎博光氏寄贈の「世界の核被害」展示パネルなどをリニューアル、作製し各地での展示を呼びかける。
- ・映画「西から昇った太陽」などの活用を広げる。
- ・各地での学習会や講演会等の開催をよびかけ、講師等の派遣、出前授業などをおこなう。
- ・小中高校生を対象にした第五福得竜丸・ビキニ事件の入門学習(来館に向けての事前学習)教材を製作する。
- ・子ども企画～工作教室やワークショップなどの実施、今後の新たな企画化にとりくむ。

船体・エンジン等の保存のために

第五福竜丸船体等保存委員会を2016年に設置し、協議をすすめこれまで3回の3D測定(2017、2019、2020年)に実施、温湿度計測、カビや害虫検査などをおこなってきた。昨年度はコロナ感染拡大により委員会の開催を見送ったが、検討委員会を再開し状況を勘案しながら「船体内外の目視調査」や「3D測定」の実施、日常的な観察、エンジンの今後への対策など検討する。

出版事業ほか

- ・「福竜丸だより」は展示館と賛助者、市民と第五福竜丸平和協会の諸事業をつなぐメディアであり、隔月の発行をすすめる。「たより」の別冊として展示館と協会の年次報告を作成し配布する。
- ・昨年から刊行を始めたFUKURYUMARU BOOKを第五福竜丸・ビキニ事件に関するシリーズとして刊行する。
- ・「福竜丸だより」(1号～400号)をウェブサイト化した。この一般公開をおこなう。
- ・所蔵資料の整理作業にとりくむ。
- ・展示館活動の充実をはかる一環として、ボランティアの会の活動をすすめる。

ビキニ水爆実験被ばく70年(2024年)にむけて記念事業を準備する

- ・第五福竜丸被ばく70年を記念し、メモリアルに相応しいビキニ事件を伝える契機とする諸企画を立案しとりくみを始める。
 - ① 戦後核開発・核実験とそれによる被害者、補償などの現状、今日の核問題と禁止条約などについて検討するシンポジウム、市民講座などを検討する。
 - ② 上記の課題にそくした70年記念企画展、一部常設展示のリニューアルなどにとりくむ。
 - ③ 協会所蔵資料のデータ化、整理、資料室の機能化にとりくむ。
- ・これらの企画のための体制を協会役員、専門委員、各界の協力者などによりつくる。

以上